

学校白慢

58 人全員でがんばる学校

野田市立関宿中学校長

いいもり じゅん
飯森 淳



1 はじめに

関宿の地は、利根川と江戸川に挟まれかつて水運の要衝として発展し、関宿藩の城下町としても栄えた。また、終戦時の首相である鈴木貫太郎氏を輩出、戦後は酪農の里としても隆盛を極めた郷土色豊かな地域である。

本校は、平成 28 年度に創立 70 周年を迎えた。近年生徒数が減り、今年度は全校生徒数 58 名と小規模化が進んでいる。地域に愛され、地域とともに歩む学校である。

2 全員でがんばる関宿中

本校は家族的な雰囲気のある学校であり、校内外の活動に全校生徒が一致団結して取り組む。全校体育・全校合唱・全校帰りの会・男子全員駅伝部等で総力を結集する。特に 10 月に行われる野田市小中学校音楽会には、毎年全校合唱で出場する他、和太鼓の発表でも多数の生徒が舞台に立つ。また東葛飾地方中学校駅伝競走大会においても、合唱・和太鼓に参加した生徒が代表として走るなど、目を見張る頑張りを見せてくれる。

3 主体性と自己有用感をテーマに

本校は、少人数のため教師主導に陥る危険が常にある。そこで、今年度「主体性と自己有用感」をテーマとし、すべての教育活動でその実現を目指すことを教育課題とした。

NIE の取組として、新聞記事を読み、要約し、さらに自分の考えを書かせる授業や新聞の掲示物を毎日フロアに貼り、社会の動きを知らせたり、様々な人生にふれさせたりすることで、社会に目を向け、やがて世の中の

一員としての自覚が芽生えることをねらいとした実践に日常的に取り組んでいる。

生徒総会では「学校をより良くする」をテーマに「昼休みの延長」「日課中に、分からない問題を自由に質問できる時間をつくる」「より質の高い挨拶をめざす」の 3 つの提案が出た。全校生徒が自分の考えをしっかりと発表し、これら 3 点は生徒の力で可決した。それを受け、職員会議で日課や時間割の変更をしたところである。日々の成功体験が自己有用感に繋がると考えての試みだ。

4 小中連携、中高連携の取組

本校は、県立関宿高等学校と連携型中高一貫教育を行っており、授業交流が盛んである。

また、学区を同一にしている野田市立関宿小学校とは一小一中の関係にあり、英語、家庭科、音楽の指導で授業交流を行っている。

授業の他にも小・中合同運動会を始めとした合同行事の実施、「学力向上部会」「生徒指導部会」の 2 部会を設置し、小・中全職員が校種を越えて義務教育 9 か年を見通した教育の研究を進める合同会議も特色である。

5 おわりに

「少人数だからできること」これを常に模索している。職員そして生徒から様々なアイデアを出し合い、ともに「自分たちの学校を創り上げていく」というスタンスを大切にしていきたい。